

2026年6月15日

株式会社ダイセル

## 酢酸セルロース(TAC)事業が「セルロース学会技術賞」を受賞

### 液晶ディスプレイ等産業の発展を通じた社会貢献が評価

株式会社ダイセル(本社:大阪市北区、代表取締役社長:榊 康裕)は、富士フィルム株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長・CEO:後藤 禎一、以下、富士フィルム社)と連名で、2026年6月1日に、2025年度セルロース学会技術賞を受賞しました。

本受賞は当社と富士フィルム社の研究開発に基づき、当社の TAC(三酢酸セルロース: Triacetyl cellulose)を主原料として富士フィルム社が成膜して製造する TAC フィルムが、液晶ディスプレイ(LCD)、有機 EL ディスプレイ(OLED)の性能向上と市場拡大に多大に寄与し、社会貢献したことをセルロース学会が評価したものです。

2026年7月9日、府中の森芸術劇場(東京都府中市)で開催される、第33回セルロース学会年次大会中において授賞式及び受賞講演が行われます。

#### ■ 研究開発の概要

TAC フィルムは従来、写真フィルムベースとして広く用いられてきました。当社と富士フィルム社は LCD、OLED における重要な光学フィルム材料の一つ「偏光板」に TAC フィルムを用いるにあたり、TAC フィルムの光学特性が表示装置の視野角等の表示品位を左右することに早期に着目し、ディスプレイ方式に応じた TAC フィルムを次々と開発しました。

表示品位に関わる重要な光学特性の一つは、光が素材を透過する際に生じる位相のずれ、レターデーション(位相差)です。その制御のために、TAC の分子構造を含むフィルム設計の見直しを行いました。さらに、高品質の製品を安定的に供給するために生産技術を革新しました。

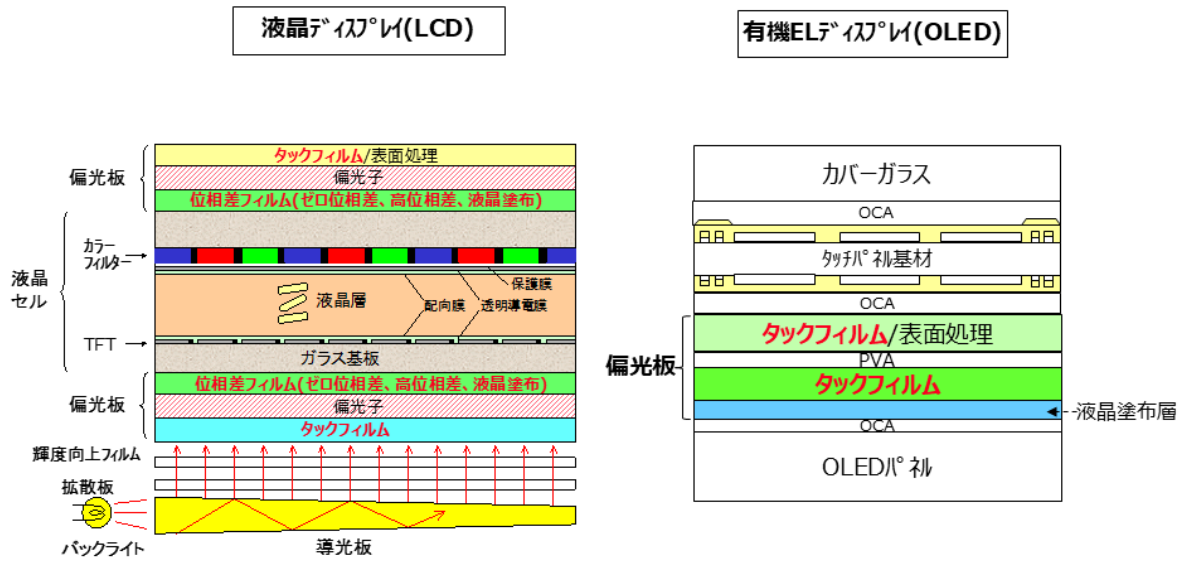
LCD や OLED での視野角の拡大にあたり特に重要なのは、黒表示における光漏れですが、セルを斜めに通過する光は、セルの設計に反して位相差を生じ、黒色が黒に表示されない問題がありました。この問題は、TAC フィルムによって、逆の位相差を与えることで解消されますが、位相差はディスプレイの方式によって異なり、それに応じて TAC についてさまざまな設計が求められました。

コタエを、ダセル。

DAICEL

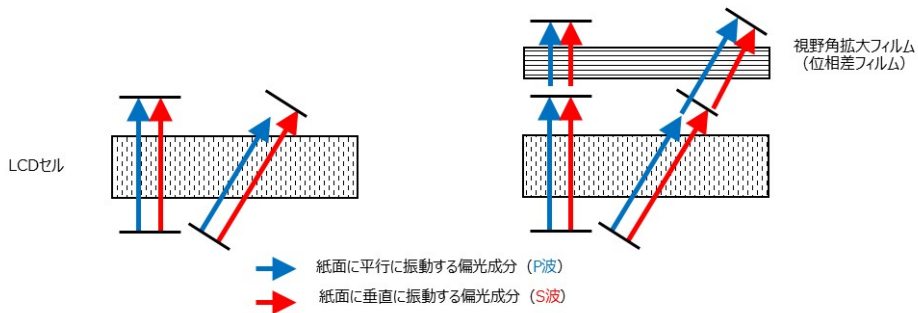


# LCDおよびOLED用偏光板でのTACフィルムの使用



## 液晶ディスプレイの視野角拡大の原理

- ◆ 視野角拡大で特に重要なのは、黒表示における光漏れ  
セルを斜めに通過する光は、セルの設計に反して位相差を生じ、黒に表示されない
- ◆ 前記の問題は、視野角拡大フィルム（TACフィルム）によって、逆の位相差を与えることで解消される
- ◆ 位相差はLCDセルの方式によって異なり、それに応じてTACの $\Delta n_0$ と配向度 $\gamma$ についてさまざまな設計が求められた



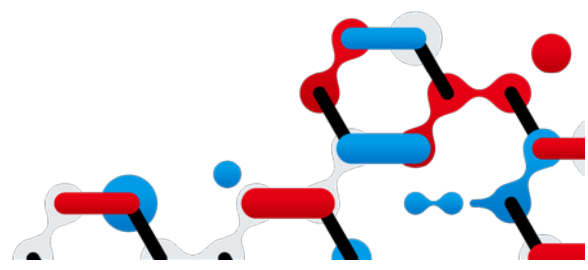
### ■ 受賞内容

ディスプレイ用三酢酸セルロース・フィルムの製品・技術開発

受賞者(所属・氏名):

コタエを、ダセル。

DAICEL



1)阿隅雄也 2)鈴木雅彦 3)網中英一郎 4)深川伸隆 5)鈴木良明(すずき よしあき)

1) (株)ダイセル マテリアル SBU テクニカルソリューションセンターセルロースグループ リーダー

2) (株)ダイセル 知的財産センター知的財産ソリューショングループ 部員

3) 富士フイルム(株) アドバンストファンクショナルマテリアルズ事業部 シニアエキスパート

4) 富士フイルム(株) アドバンストファンクショナルマテリアルズ開発センター 嘱託

5) 富士フイルム(株) マテリアル生産本部・技術マネージャー

## ■ 用語解説

### TAC (三酢酸セルロース: Triacetyl cellulose)

TAC とは、木材の主成分であるセルロースを原料とし、セルロースのモノマー構成単位に 3 つ存在する水酸基をアセチル化して得られる酢酸セルロースの一種で、平均でおよそ 2.9 個の水酸基がアセチル化されたものを指します。セルロイド製で燃えやすいことが課題だった映画用フィルムの不燃化を目的として、当社は 1954 年、富士フイルム社の要請を受け、TAC を開発・工業化しました。

ディスプレイの表示品位に関わるレターデーション(位相差)をコントロールする TAC 固有の性質

フィルム状に成型される高分子化合物は線状の分子形態を有しており、その分子の縦方向と横方向では性質が異なることが一般的です。一方 TAC の分子は特異な性能を有しています。ディスプレイの表示品位に関わる光学特性の一つ、レターデーション(位相差)に大きな影響を及ぼす、分子の電子振動の縦横の特性の差「複屈折」について、TAC はゼロ付近の値を有すること、さらに化学構造を制御することで「複屈折」の値が微調整可能であることを、継続的な研究により確認していました。

この知見と技術が、ディスプレイ装置用の TAC フィルムに応用されています。

一連の研究開発成果は「ダイセル式生産革新」によって作られた当社独自の「知的統合生産システム」によって、早期に量産設備へと実装されました。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社ダイセル

事業支援本部コーポレートコミュニケーショングループ

TEL: 03-6711-8121

Mail: public\_relations2@jp.daicel.com

コタエを、ダセル。

DAICEL

